

第24回臨床工学研修会プログラム

『医療機能評価における臨床工学技士の役割』

日時：平成17年4月24日(日) 10:00~12:30

会場：富山医科薬科大学附属病院 2F 臨床講義室(2)

〒930-0194 富山市杉谷2630 076-434-2281

主催：富山県臨床工学技士会

ワークショップ 10:00~10:50

1.病院機能評価を受審して

司会 富山市民病院 熊代 佳景

黒部市民病院 臨床工学科

笹山 真一

済生会高岡病院 臨床工学科

山下 敬雄

市立砺波総合病院 医療技術部 臨床工学科

山下 智之

休憩

特別講演 11:00~12:30

2.特別講演

司会 北陸中央病院 西手 芳明

『医療機能評価における臨床工学技士の役割』

患者安全管理・医療の質の向上を担う臨床工学技士

~ Project 'Only One !' 院内改革を目指して ~ 』

北野 達也 先生

社会保険久留米第一病院 臨床工学技士

(前 財団法人日本医療機能評価機構

医療事故防止センター医療事故防止事業課長)

特別講演

『医療機能評価における臨床工学技士の役割』

北野 達也 先生

「患者安全管理・医療の質の向上を担う臨床工学技士

～Project “Only One ! ” 院内改革を目指して～ 」

ワークショップ 10:00~ 10:50

病院機能評価を受審して

臨床工学技士の病院機能評価 (Ver.4.0) の取り組み

黒部市民病院 臨床工学科

笹山 真一、田中 果絵、徳道 久就、
光地 亜希子

当院の病院機能評価 (Ver.4) 受審は2003年10月13日~15日に行われました。当院での臨床工学部門での最初の取り組みは、まず2003年4月より、「医療技術部 臨床工学科」を設置し、ME機器の一覧表を作成した。その後、分類分けやランク分け、管理部署、管理者を決定した。Ver.4では、ME機器の保守点検の記録や中央管理が重要であった為、重要と思われるME機器について、保守管理マニュアルを作成し、記録を開始した。臨床工学科は主に生命維持管理装置を担当した。

また、中央管理においては以前よりME室が設置されており、輸液ポンプや人工呼吸器の管理、ME機器の点検や修理などを行っていたので、スムーズに遂行することができた。

しかし、それらの記録を整理していなかったために、その整理に時間が費やされた。

受審日には、必須項目はすべて目を通し、ME室にも訪問され、記録全て目を通していかれました。質問では、人工透析、人工呼吸器、中央管理についていくつか質問をされました。

評価としては、良い評価をいただきましたが、「これらを継続し、また新しい分野を行う場合は現状の人数では足りないのではないか？」とコメントされた。

病院機能評価の受審に当たって

済生会高岡病院 臨床工学科

山下 敬雄

当院に就職して5ヶ月が過ぎた頃、「来年(2004年)の6月に機能評価を受審する」という言葉が院内に出回り始めました。私はまだ右も左もわからない新米でしたが(今でもそうですが)、とりあえず事の重大さだけは感知しました。

MEの分野もあり、私は「ここで強烈にアピールして臨床工学技士の知名度・必要性を訴えよう」と必死に資料・情報等の収集、院内会議の中での発言を試みました。その結果、2004年の4月1日から医療技術部、臨床工学科という独立した科が誕生しました(ちなみに科員は私一人ですが)、ME機器を点検・管理する場所ということで、部屋も設けられました。

しかし、一人だけでは他施設さんのように様々なME機器の中央管理などという真似は到底出来ないで、各部署のスタッフ(看護師)に色々と協力してもらった結果、2004年9月に見事日本医療機能評価機構より認定証が交付されました。

ワークショップ 10:00~ 10:50

病院機能評価を受審して

病院機能評価における当院臨床工学科の役割

市立砺波総合病院 臨床工学科

山下 智之

市立砺波波総合病院は病院機能評価認定を目指し、1999 年末より病院機能評価推進委員会を発足し、2000 年 10 月から手術部門代表として臨床工学技士が委員として参画している。(当時は臨床工学科発足前の時代で、臨床工学技士は手術部所属であった。)病院増改築と平行した時期であり、病院建築と病院組織機構も同時に見直されている。

2002 年 3 月には、バージョン 3.1 種別区分複合 B で認定を受けている。認定有効期限は 2007 年 3 月であり、更新に向けての取り組みはこれからである。

病院機能評価総合判定評価項目は年々細分化されており、バージョン 5.0 の評価項目にあらわされている。その中から臨床工学技士に関連した部分を示し、現在の当院臨床工学科業務と対比し課題を検討する。